

私はデンマークという小さな国の出身です。北欧、ドイツのすぐ北に位置しています。島々を全部合わせると九州くらいの大きさです。

私の国ではクリスマスはとても大きな祝日です。ほとんどの都市では街路にイルミネーションが飾られ、多くの人々が12月いっぱい自宅を飾りつけます。大抵の人はクリスマススの数日前にクリスマスツリーを飾り、さまざまなオーナメントやライトで彩ります。私の家族は毎年、自ら森へ出掛けて木を切り倒します。クリスマスの日には、豚バラ肉や鴨肉を食べるのが伝統で、さまざまな種類のベイクドポテト、ブラウンソース、赤キャベツのピクルスなどが



国籍 デンマーク

名前 イサク・シュミット
年齢 22歳
趣味 ストレッチ・トレーニング、ビデオゲーム

添えられます。デザートは通常『リスマン』と呼ばれるものです。デンマーク人はいつもクリスマスに雪が降ることを願っていますが、残念ながら最近はかなり珍しいことです。でも、運が良ければ降る可能性はいつだってありますよね？

今は鳥栖にある英語教育の幼稚園で働いています。鳥栖は故郷を少し思い出させますが、日本の独特の風習がそこかしこにあります。鳥栖に来た理由は日本語を学ぶためで、今もそれが主な目標ですが、他にも多くのことを学んでいきたいと思っています。母国に帰ってからでも学び続けていくつもりです。



▲クリスマスツリー

■やさしい日本語クイズ答え
(18ページ) ①右に曲がつてはいけません ②一度止まります ③歩いている人が優先です ④鍵を2つかける

とす新風土記「鳥栖市誌」を読む 第122回

「勝尾城を知る」第18話

勝尾城の支城「鏡城」

鏡城（標高191m、牛原町）は、勝尾城の東方約2.5kmに築かれた支城群の一つです。

鏡城は、江戸時代の史料に少弐氏の属城であったことが記されていますが、確かなことは分かりません。また『筑紫家由緒書』には、永禄年間（1558～1570年）に筑紫氏の一族間で発生した内紛の過程で鏡城が使用されたことが記されています。

鏡城は、西隣の葛籠城とともに谷の出口にあり、勝尾城下の『惣構』一帯を見下ろす位置にあるため、葛籠城と連携して正面防衛を担う勝尾城の支城であるといえます。一方で、南麓の牛原集落には武士の館のような形状となっている区画があることから、鏡城自体

が平地の居館とセットで、在地領主の拠点として機能していたようにも見えます。おそらく、筑紫氏の有力な家臣が有事の際に立てこもる城としての性格を持っていたのでしょう。

鏡城は、16世紀後半の筑紫広門が筑紫氏当主であった時期に改修されたようです。城の中心部である主郭の造成が不十分であるのに対し、その南側に連なる2つの曲輪は徹底した造成が行われています。

注目されるのは、曲輪の周囲に堅堀を何本も連続して構築する防御施設の畝状堅堀群です。もっとも南側の曲輪に付属する堅堀群は、規模・規格がかなり統一されており、計画的に造られた構造物であると考えられます。

こうした鏡城の改修は、戦国末期に筑紫広門によって、勝尾城の防衛ラインに位置する支城として防御施設を集中させるために行われたと考えられます。鏡城は、筑紫氏が持つ築城技術を詰め込んだ城といえるでしょう。

（鳥栖市誌第3巻第5章第2節より）



▲鏡城遠景。中央の平坦部が主郭

「鳥栖市誌」発売中

「鳥栖市誌」は、市教育委員会生涯学習課、油屋本店、古賀書店などで取り扱っています。詳しくは、同課（☎0942-85-3695）へ。



「記事ID」をご利用ください

市ホームページの記事ID検索窓に、市報に掲載しているIDを入力することで情報を確認できます。



2026.1

30